

# 委託事業実施内容報告書

## 平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【ボランティアを対象とした実践的長期研修】

受託団体名 (財) 福岡YWCA

#### 1 事業の趣旨・目的

日本語教育と多文化における知識を学び、行政、教育機関、民間企業、NGOなどとコーディネーターできる人材を育成し、実践できる場を提供する

#### 2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
① 2009/6/11 18:00 ～20:30	福岡YW CA会館	白土、板山 中本、山崎 佐藤、木村 奥村、野崎	講座の開講にあたって	目的の確認 内容の詳細について意見交換と決定 広報の方法について 役割分担確認
② 2009/11/12 18:00 ～20:30		中本、山崎 佐藤、木村 奥村、野崎	講座の中間報告と今後について	講座の報告 後半にむけての内容の調整
③ 2010/2/25 18:00～20: 00		白土、山崎 木村、奥村 野崎 (2/5 板山、佐 藤、中本、 野崎)	ふりかえりと来年度に向けて	参加者の反応とアンケートから、講座全体の報告と振り返り

【写真】(会議風景の写真を1～2枚参考に添付して下さい。)



### 3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 多文化日本語ボランティア講座
- (2) 研修の目標  
日本語教育のスキルだけでなく、ボランティアに関わる人がしておくべき知識と情報を得る  
ボランティア教室運営に必要なコミュニケーション力・ファシリテーター力を養う
- (3) 受講者の総数 55 人
- (4) 開催時間数(回数) 55 時間 ( 8 回+実習 5 回)
- (5) 参加対象者の要件  
在住外国人を対象とした日本語ボランティア実践者、経験者、  
在住外国人を対象とした支援活動実践者、経験者で、日本語ボランティアに関心がある方
- (6) 受講者の募集方法  
案内チラシ配布→メール、FAX、電話での申し込み  
各市町村の市民センター、公民館、日本語教育機関への案内配布  
福岡県内の日本語ボランティア教室への案内配布  
福岡 YWCA の HP 上での案内
- (7) 研修会場  
ア 講義 福岡 YWCA 会館  
イ 実習  
福岡 YWCA 会館、多目的カフェアニパニ(春日市)、  
あすみん(福岡市青年センター)
- (8) 使用した教材・リソース  
「人権教育のためのコンパス[羅針盤] 明石書店  
「人やまちが元気になるファシリテーター入門講座」解放出版社  
「気になる子 理解できるケアできる」子育てサポートブックス  
「ライティング・ワークショップ」新評論  
「New Horizon3」東京書籍  
「日本語学級1」凡人社  
「日本語を母語としない中学生の高校進学を考える会 2009 報告書」福岡地区進路保障協議会・ともに生きる街ふくおかの会

## (9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月4日 12:00～17:00	ボランティアにおける コミュニケーション	福岡教育大学講師/開発 教育ファシリテーター 吉野あかね	28名
8月1日 10:00～17:00	様々な日本語ボラン ティアの取り組みか ら/とよなかからの発 信	(財)とよなか国際交流協 会専門職員 富江 真弓	34名
9月5日 10:00～15:00	* 多文化の背景と福 岡の現状  * 様々な日本語ボラ ンティアの取り組み II	* 元福岡国際大学教授/ アジア女性センター理事 堤 かなめ  * 宗像市こころの教室相 談員/元豊中市教育委員 会嘱託職員 奥村 美保	35名
9月19日 13:00～17:00	異文化コミュニケー ション	西南学院大学教授 宮原 哲	34名
10月4日 10:00～18:00	活動現場におけるフ ァシリテーション	人まちファシリテーション 工房主宰 ちよん せいこ(鄭成子)	23名
10月31日 10:00～18:00	マイノリティの子ども の教育ニーズについ て	大東文化大学教授/NPO 多言語教育研究所理事 長 ミックメーヒル カイラン	32名
11月28日 10:00～14:00	教育の現場から/ 生活者として福岡に 暮らして	内浜中学校教諭 板山 勝樹 壱岐中学校教諭 田中 木美 福岡在住 ミル・ナビィ	16名
1月16日 10:00～17:00	多文化日本語ボラン ティア講座まとめ・ 今後に向けて	福岡教育大学講師/開発 教育ファシリテーター 吉野あかね	19名

10月4日から1月16日(12h) 水曜・土曜 福岡YWCA または各活動現場において	日本語ボランティア 実習・ *日本語学習においてコミュニケーションスキルを実践 *教室運営でのファシリテーションスキルを実践 *年少者教育の実践	元福岡大学非常勤講師 松崎啓子 福岡コミュニケーション専門学校非常勤講師 江副史子 元九州大学留学生センター非常勤講師 福田多美子 ふくふく日本語教室講師 飯田京子	13名
--	--	---	-----

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

講座について

・期間は適正でしたか？

長い(11) 適当(5) 短い(0)

・日時はいかがでしたか？

土曜日は都合がつくので良い(7)

土曜日でもいいが、時間が長い。午後だけ、または午前だけが参加しやすい(8)

平日の夕方から短い時間がやすい(1)

・期待していた内容でしたか？

期待以上(2) 期待とおり(6) 普通(4) 期待以下(0) どちらともいえない(4)

・講座終了後の活動について

これまでの活動現場で続けて日本語ボランティアを行う(9)

小中学校での日本語ボランティアにも活動を広げたい(2)

ボランティアを続けながらもっと自分も学びたい(8)

もっと違う形でもボランティアがしたくなった。どのような形かまだわからないですが(1)

各講座後の加者のアンケートから

7月4日

・自分の授業の中でアイスブレーキングを活かしたい

・ある国に対してもっていたイメージが思い込みだった

・コミュニケーションにおける非言語コミュニケーションの割合が高いと知り、驚いた

- ・長年ボランティアをやっているが、ワークショップ形式で学ぶのははじめてだったので面白かった
- ・知っていると思っていたのに、目からうろこが多かったです。
- ・ただ日本語を教えることだけを考えていたことに気がついた

8月1日

- ・分かりやすい授業をするが重要だと思い、そればかりを考えているが「世話になる立場の力を削ぐ」という指摘に、言語習得以上に相手の立場や相手の力を考えることを大切にしようと思った
- ・外国人に法的に守られていないことを知った
- ・識字クラスの方の作文が印象的だった
- ・相手の主訴をひきとらないこと、沈黙を恐れないこと、傾聴を知った
- ・「エンパワー」とは、力をつけてあげることだと理解していたが、本来その人がもっている力を引き出すことだと改めて気がついた
- ・外国人に関する法律や社会の制度をもっと知れば、相手の困っていることがもっと理解できると思った
- ・識字教育について、もう少し知りたかった
- ・在日外国人のイメージが偏って伝わっている、偏見をもって情報を流すこともあるのに気がついた

9月5日

- ・国際結婚における問題がこんなにあるとは思わなかった
- ・DVのことをあまり知らなかった
- ・福岡の現状を数字で知った
- ・相談を受けた場合のことが具体的にわかってよかった

9月19日

- ・異文化が外国に対してだけでなく身近にもあることを強く感じた
- ・情報を知識として定着させることの必要性を学んだ
- ・カルチャーショック自体は、悪いものではないということ
- ・講義にリズムがあり、自分の授業の参考になった

10月4日

- ・今回も「傾聴」の大切さを学んだ
- ・書くことで問題点を洗い出し、まとめにつながっていく

- ・話し合いを視覚化(可視化)することで、問題解決につながるのとはとてもいいです
- ・アイスブレイキングを実際になってみよと思った
- ・参加者のハードルをできるだけ低くすることの大切さ
- ・参加者のハードルをまず低くして、話しやすく、参加しやすくすることの大切さ
  - ・今までで一番面白く、すぐ実践したいと思った

10月31日

- ・支援を考える場に当事者がいない、当事者の意見がないことに気がついた
- ・一方的な日本文化の押し付けをしていたかもしれない
- ・日本語ができれば問題解決ではないことを学んだ
- ・日本語と母語、母語とアイデンティティの関係
- ・対文化コミュニケーションで、つい日本 vs アメリカの図式だけで考えてしまう
- ・見た目とアイデンティティのワークは面白かったが、誤解される方はストレスを感じたり、ステレオタイプで理解されてあらたな誤解を生むこと

11月28日

- ・労働力として在日外国人を当てにしているのに、その人たちの生活の問題には対策がない
- ・多文化の子どもが自信をもてないという事実
- ・学校の日本語指導のための取り組みに工夫が見られる
- ・学校の実態を知った
- ・行政の遅れの中で、努力されている先生がいることを知った
- ・子ども達へのいろいろな活動が知られていない、情報が必要な人に届いてない
- ・留学生は本国ではエリートだろうなくらいの認識しかなかったが、現実には日常の中で苦労があることを理解できたように思う
- ・「ナビィさんのように困っている人をサポートしたいと思うけれど、どこでどういう方法があるのかわからない
- ・「こういう問題で困っている」だと気づかされました。私たちには当たり前すぎてきがかつかないことが沢山あるのだなと感じました。

1月16日 まとめ

<一番の収穫>

- ①カルチャーショック自体は悪いものではない
- ①ちょんせいこさんのファシリテーション講座/ホワイトボードの使い方
- ①視野が広がった 多角的に物事を考えるようになった
- ①今までと違う世界の人たちと知り合えたこと
- ①同じ問題を持てる仲間
- ①異文化理解の大切さを知ったこと
- ①疑問が解けた
- ①自分自身についての思い込み、他の感じ方を知ったこと
- ①在住外国人についての様々な事柄・困難な問題
- ①相手の立場を考える(相手が一番望んでいることを聞き、それを叶える努力をすることが一番大事)
- ①コミュニケーションを楽しみたい
- ①地球上の異なる環境や人種の違いを越えて人間の「こころ」は同じだと思えた  
<初めて知ったこと>
- ②外国の人たちが日本での日常に生活する中で感じる疎外感
- ②子どもたちの習得した日本語の中のたりない部分
- ②福岡の現状
- ②情報が英語で伝えられることで不自由を感じている人が大勢いるという驚き
- ②子どもの言語習得について
- ②日本(福岡)に在住する外国人の多さ
- ②在留資格・就労が出身国によって最初から制限があること
- ②カンボジア出身なびいさんの苦労/日本の習慣は日本人には当たり前すぎてなかなか気付けないことが多いので
- ②マイノリティの子どもたちの抱える問題について
- ②日本で暮らす外国人の現状/ボランティア活動の多様さ
- ②一方的な日本文化の押し付けをしていたかもしれない  
<自分も挑戦したい・取り入れたいこと>
- ③人の話をじっくり聞いてあげられる人に
- ③いろいろな国の言語・風習を理解しようとする姿勢
- ③フレイル教育法
- ③相手の状況・文化などを良く理解した上での対応の仕方
- ③夜間中学や識字学級で学ぶ人々の根源的な学習意欲
- ③多面的な考え方をする
- ③本講座で学んだこと
- ③ファシリテーションのスキルを学習に取り入れたい

- ③自分を知る”私は～です”人をサポートするためには、まず
- ③身近なボランティア活動をしたみたい
- ③日本国内の身近な所からボランティア活動をしたみたい
- ③真似したい事/わたしは～です
- <自分の考え方や姿勢の変化>
- ④行動力がついた
- ④コミュニケーションには相手への深い洞察と自分の当たり前を疑問視する姿勢が必要と思うようになった
- ④身近にいる外国人の方が気になる
- ④在住外国人への対応が少し変わったように思う
- ④少数といわれる人たちの不自由さを知った
- ④目の前の相手と単に日本語の勉強をするだけでなく、広く背景をとらえようとする視点を持つようになった
- ④自分の現状を受け止める
- ④説明する力をつける必要性
- ④今の私ができることを取り組もうと思っている。楽しんで
- ④知らない人にも積極的に話しかけられるようになった

## ② 実施主体からの研修内容結果評価

今回の講座は、日本語教育だけでなく多文化社会における専門的な知識を学び、行政や教育機関、民間企業や NGO などとコーディネートできる人材を育成し実践できる場を提供することを目的として開催した。

成果としては、次の 2 点が挙げられる。

第1に意欲的な参加者が多く集まったことである。

参加者は既に日本語教育や在住外国人支援に携わっている人が多く、福岡で「これまでの活動をもっと充実させたい」「問題はないが何か違う気がする」「もっと知りたい」と学ぶ機会を求めている人が多いことがわかった。そのためこの講座に対する満足度は高かった。今回の講座を提供できたことは大きな成果である。

第2は、多くの参加者から「在住外国人の状況を初めて知った」「自分の活動を振り返ることができた」という感想が聞かれたことである。目的のひとつである「多文化社会の専門的な知識を学ぶ」ことを、ある程度達成できたといえる。特に「当事者の視点に立つ」ことから、始めることを参加者が共有できたことは大きな成果であった。

ほとんどの参加者が日本語ボランティアや在住外国人対象のボランティアの経験者であるにも関わらず、予想していたよりも活動におけるアクティビティや在住外国人



に対しての基礎知識が少なく、コミュニケーションスキルの偏りが感じられた。地域のボランティア教室の現実を知り、講座内容を中盤で再度見直した。

コーディネーター育成よりも「日本語教育と多文化における知識を学び」とコーディネーターの前段階としてコミュニケーション力養成に重きをおくことにした。

講座の内容は、「自分を知る、目の前の相手(学習者:在住外国人)を知る、在住外国人の置かれた状況を知る、在住外国人にとってどのような日本語教育が必要か、在住外国人のニーズを知るためには、そのための仲間(ネットワーク)づくり、仲間と活動をするために必要なコミュニケーションとは、活動現場での話し合いのスキル、これからの活動に向けて」という流れとした。

ボランティア経験者が多いため、それぞれ活動の在り方や学習者との関係、話し合いの持ち方に関しては、新しい方法や学習者との新しい関係の築き方を簡単に取り入れることは難しいことがうかがえた。

そのため講座の後半は在住外国人の講師や当事者の声を聞く機会を増やして、参加者が当事者の視点に立つことを学ぶ場とした。

日本語指導だけでなく、第5回のホワイトボードミーティングや第1回、第8回のコミュニケーションにおけるいくつかのアクティビティをボランティアの現場で実践する実習を通じて、頭でわかっただけでなく何度も実際に行うことによって、どのような点でできないのか、自分の現場ではどのように活用できるのを学ぶことができた。

当初の目的の一つである「コーディネーター養成」まではできなかったが、地域のボランティアに即した講座が開催できたこと、「当事者の視点に立つ・当事者の声を聞く」ことを全員が学んだことは評価できると考えている。

今後もこの経験を生かし、多くの方に学びの場を提供し在住外国人のための日本語教育に貢献したい。

### ③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・在住外国人を対象とするボランティアの充実を図る講座の実施
  - ・福岡 YWCA 会館で毎週土曜日に展開している日本語を母語としない子どものための支援(福岡 YWCA ハッピースクール)事業を、福岡市郊外にも拠点を増やす。
- 春日市、久留米市は日本語を母語としない子どもに対して、小中学校での日本語特別授業がなく、民間団体による子どものための日本語教室活動も少ないため。

### (11) 事業の成果

#### ① 他事業との連携

- 進路保障協会・福岡ともに生きる会の進路ガイダンスへの協力
- 講座を通しての地域のボランティア個人のネットワークづくり
- 在住外国人女性のための支援団体における日本語ボランティア協力

#### ② 研修後の人材活用

- ・福岡市教育委員会が行う日本語特別授業の教師への登録紹介
- ・在住外国人女性のための支援団体における日本語ボランティア
- ・福岡 YWCA ハッピースクール(子どものための支援)日本語教師
- ・在日フィリピン人のためのホームヘルパー講座での日本語ボランティア

## (12) 今後の課題

課題としては、座の目的の一つに「行政や教育機関、民間企業やNGOなどとコーディネートできる人材を育成」することを挙げたが、それを達成することには至らなかったことである。

長年、在住外国人の日本語教育に関わっていても在住外国人や多文化に関して知識や情報が少ない方が多い。また自分の教室の学習者にしか関心がない面もうかがえた。(例えば、国際結婚の現状を知る講座でDVの問題をとりあげた時に「自分の教室にはそんな人はいないから関係ない」という発言)すべてではないが日本語ボランティアや日本語教師が教えること、支援することの自己満足に終わっている点、また自分たちの活動を行政や教育機関、民間企業やNGO とつなげていくという発想は育っていないことがわかった。

福岡において在住外国人が孤立することのない多文化社会を作り上げていくための学びの機会がまだまだ必要とされている。

当事者の視点で活動や学習指導を組み立てていくこと、そのことに気が付き、どう周囲を動かしていくか、日本語ボランティアや関係者が、在住外国人のひとりひとり異なるニーズを知ることができれば、在住外国人の日本語学習は有効な時間となり、学んだ日本語は日本で生活するための重要な力となる。

そのことを学び実践力を養成する講座を開催して、本事業に携わり在住外国人とともに住みよい地域を形成することに貢献したいと考えている。